

～日常行動・状況理解に基づく知識共有システムの研究開発～

委託先：(株)国際電気通信基礎技術研究所

研究代表者：知識科学研究所所長 小暮 潔

研究期間：平成16年9月～平成21年3月

主な研究実施場所：京都府相楽郡精華町

研究成果：業務を阻害しない小型装着型センサや環境設置型センサにより、これまで見過ごされてきた業務中の日常行動・状況を理解し、これに基づき業務に有用な知識を構築し、その知識を関係者にも提供するシステムを構築する技術確立することを目標として研究開発を実施した。具体的な題材としては、医療看護現場を取り上げた。3つのサブテーマ、行動・状況理解技術の研究開発、知識構築技術の研究開発、知識提供技術の研究開発を設定し、研究開発を実施した。要素技術として、医療看護現場で実用的に運用可能なセンサ・ネットワーク・システム等を開発するとともに、(1)看護業務記録・分析システムのプロトタイプ、(2)ヒヤリ・ハット・ドキュメンタリ作成システム、(3)ジャストインタイム看護アドバイス・システムのプロトタイプを開発した。開発した技術に基づき、看護業務支援システム、家庭向け生活見守りシス

テム、運転技能自動評価システム、理学療法向け治療効果計測システムの事業化を進めている。

看護師の業務中の行動や状況を理解するために小型装着型機器や環境設置型機器を連携して使用するセンサ・ネットワーク・システムから得られる計測情報から看護師の行動を識別する技術を開発し、平均90%以上の識別性能を得ることが確認された。

研究成果説明図：

